

「Developers Summit 2012」参加報告

原 祐一

工学系技術支援室 情報通信技術系

はじめに

日本を代表するデベロッパーが講演を行う「Developers Summit」が、今回で10年目となり、「10年後も世界で通じるエンジニアであるために」というテーマで、今年も開催された。腕に覚えのある技術者の公演を聴講することで、今後の情報技術の流れを掴み、技術職員として磨くべき技術、習得すべき技術を調査し、今後の業務に役立てることを目的に参加したので、下記に報告します。

1. 「Developers Summit」について

厳しい経営環境の中、新卒以外に対して、継続的に教育や研修を行うことが困難となっている。技術者が技術を磨くためには、独自で知識やスキルを上達させる必要がある。このような環境の中で、技術者同士のコミュニティの場を与えることをコンセプトに、10年前、「Developers Summit」が開始され、今まで開催されてきた。

2. セッション概要

平成24年2月16日～17日（10:00～17:20）の2日間の日程で開催された。

セッションの形式は、事前申込制で、68のセッションが行われた。

各セッションは、5つの会場で同時進行する形をとっている。

1つのセッションは、45分または50分、「開発プロセス」「Web Technology」「Mobile Technology」「Cloud Development」「これからのアーキテクチャ」などのテーマで講演された。

※スケジュール等については、固有名詞を含む項目があり、転載の許可を得ていないことから、省略します。

3. 講演聴講内容

iOS、Android、Windows Mobile と、以前にはなかったタブレット関連の開発が増え、プログラミングの幅が広がりを見せた。今年は、この流れにのる形で、「Mobile Technology」の講演が多く行われた。今後の開発分野の1つとして考えられる「Mobile Technology」を中心にセッションを聴講した。

スマートフォンのソフトを開発する上で、Web 開発と同じ既存の技術を利用できる点と、既存の技術だけでは、対応しきれない点がある。

プログラミング言語は、従来から存在するC言語（C++）、Java、VBを扱うことができれば、「iOS、Android、Windows Mobile」のいずれかの開発に対応できる。しかし、ユーザーインターフェース（下記よりUIと表現する）は、Webとかなり異なる点が多い。そして、UIは、機種ボタンの配置場所や画面サイズが異なるため、機種依存を受ける。また、OSの

種類や OS のバージョン依存を受ける点が異なり、他機種との同時開発が難しく、機種、OS、OS のバージョンごとに開発を行う必要がでてくる。

他にも、今後発売が予定されている Windows8 は、タブレット対応になるため、UI は、従来とは異なるデザインセンスが必要になる。タブレットが登場することにより、開発者が必要になるスキルが増えている。

4. まとめ

今のところ、スマートフォンのアプリケーション開発をする機会はないが、今後、フィーチャーフォンからスマートフォンに機種を変えるユーザも増えてくると予想される。大学として、スマートフォン向けアプリケーションを開発する機会もあると思われる。今回の講演でモバイル開発の概要を把握することができた。モバイル向けソフトウェアの開発業務が入ってきても、対応できるように自己研鑽を行っていく必要性を感じた。

また、デブサミで講演を行った、腕に覚えのある技術者は、それぞれ自分戦略を持ち、10年後でも活躍できるイメージを持ちながら、日常業務をこなしている。漠然と業務に取り組むのではなく、常に先を意識しながら、日々を過ごす点は、見習うべき点であるとともに、とても刺激になったと実感した。

5. 謝辞

今回、デブサミに参加する機会を与えて下さった、工学研究科技術部関係者、その他関係の方々に心から感謝いたします。

以上